

第3回家族についての全国調査 (NFRJ08)

第2次報告書 第1巻

Second Report on the National Family Research of Japan, 2008 (NFRJ08)

Volume 1

# 家族と仕事

Family and Work

田中重人・永井暁子 編

Edited by Sigeto Tanaka and Akiko Nagai

2011年9月

September 2011

日本家族社会学会全国家族調査委員会

Committee on the National Family Research of Japan (NFRJ),  
The Japan Society of Family Sociology



## 第3回家族についての全国調査

### 第2次報告書刊行にあたって

1990年代に産声をあげたNFRJ（National Family Research of Japan, 全国家族調査）は、1998年度、2003年度につづき、2008年度に第3回の調査を実施し、ここにその二次報告書を刊行するまでに至った。2001年度に実施した特別調査（NFRJ-S01）をはさみ、若干の変更を経ながら、3回の調査データを蓄積してきた。

1次報告書が単純集計を基礎とする報告であったのに対し、この2次報告書は、各自の研究成果の報告となっている。第3回調査（NFRJ08）のみを用いた分析もあれば、第1回（NFRJ98）や第2回（NFRJ03）とあわせて2時点ないしは3時点のデータを利用した分析も含まれている。研究関心に応じて、NFRJデータを横断的なデータセットとして用いた研究もあれば、趨勢分析を試みているものもある。また本書は、2011年7月時点までに公表されたNFRJ08にかかわる研究論文ならびに資料を、再掲も含めて網羅的に含んでいる。

この3回のNFRJデータが家族研究の幅広い関心に活用され始めたことは、NFRJプロジェクトにとって目的の一つを達成したことになる。なぜなら、NFRJは当初から、少なくとも同間隔3時点のデータ収集を目指してきたからである。この10数年余、数多くの家族研究者がこのプロジェクトに携わってきた。NFRJは、日本家族社会学会の特別委員会である全国家族調査委員会が主体であり、学会会員の有志によって担われてきた。学会で共有できる、ひいては学会だけでなく、ひろく日本の現代の家族に関心を持つ研究者が活用できるデータをつくろうと、多数の研究者がこのプロジェクトのために貴重な時間と労力を割いてきた。強力なリーダーシップを発揮して初期の始動体制を敷いて下さった先生方から現在の若手研究者に至るまで、多くの参加者に支えられて3回の調査データを蓄積してきた。調査に協力して下さった方々にまず感謝申し上げるとともに、NFRJプロジェクトにかかわってきた多くの研究者の方々にこの場を借りてお礼申し上げたい。

NFRJはまた、データ活用を通じて、家族に関する研究を切磋琢磨して進展させようという目的もあわせもって活動してきた。この2次報告書は、その成果でもある。具体的には、本書は4分冊から構成されている。「家族と仕事」「世代間関係の動態」「家族形成と育児」「階層・ネットワーク」と題するそれぞれは、NFRJ08データの学会内共同利用を申請したNFRJ08研究会のメンバーが、各自の関心のもとに4つの班にわかれて研究会活動を展開してきた成果である。前回のNFRJ03より多い、40数名にのぼる参加者を得て、活発な研究会活動を行ってきた。4つの班は、班ごとに、また時には複数の班が合同で研究会を開催し、各自の研究報告について議論を重ねてきた。さらに2011年7月には、全体（4つの班合同）で研究会を開催し、本書の刊行に至っている。NFRJ08の特筆すべき成果として、この活発な研究会活動を挙げることができよう。活動を支えたNFRJ08実行委員会

ならびに NFRJ08 研究会事務局・各班長に謝意を表したい。

この二次報告書の刊行をもってデータを一般公開し、NFRJ08 は一つの区切りをつける。次の第4回調査は、第3回から10年後の2018年度を予定している。5年間隔で実施してきた調査を10年間隔に変更したのは、データ活用の成果をあげる方により力を注ごうという意欲によるものである。これまで蓄積された3回のデータを活かした最初の成果が本書にあたる。今後、本書を契機として、さらなる成果が世に出され、NFRJ データが社会に活かされていくことを願ってやまない。

2011年8月

日本家族社会学会全国家族調査 (NFRJ) 委員会

委員長 西野 理子

## 付記1 研究組織

### 日本家族社会学会全国家族調査(NFRJ)委員会

第6期(2007.09-2010.09)	第7期(2010.09-2013.09)
<b>委員長</b> 嶋崎尚子 (早稲田大学文学学術院)	<b>委員長</b> 西野理子 (東洋大学社会学部)
<b>事務局長</b> 西野理子 (東洋大学社会学部)	<b>事務局長</b> 永井暁子 (日本女子大学人間社会学部)
<b>委員</b> 石原邦雄 (成城大学社会イノベーション学部) 稲葉昭英 (首都大学東京人文科学研究科) 澤口恵一 (大正大学人間学部) 田中重人 (東北大学大学院文学研究科) 田渕六郎 (上智大学総合人間科学部) 永井暁子 (日本女子大学人間社会学部) 福田亘孝 (青山学院大学社会情報学部) 藤見純子 (大正大学人間学部) 保田時男 (大阪商業大学総合経営学部) 渡辺秀樹 (慶応義塾大学文学部)	<b>委員</b> 稲葉昭英 (首都大学東京人文科学研究科) 澤口恵一 (大正大学人間学部) 田中慶子 (公益財団法人家計経済研究所) 田中重人 (東北大学大学院文学研究科) 田渕六郎 (上智大学総合人間科学部) 筒井淳也 (立命館大学産業社会学部) 中西泰子 (相模女子大学人間社会学部) 西村純子 (明星大学人文学部) 福田亘孝 (青山学院大学社会情報学部)

## NFRJ08 実行委員会(\*は幹事)

委員長	稲葉昭英（首都大学東京大学院人文科学研究科・教授）*
事務局長	永井暁子（日本女子大学人間社会学部・准教授）*
委員	井田瑞江（関東学院大学文学部・准教授）
	金 貞任（東京福祉大学社会福祉学部・教授）
	澤口恵一（大正大学人間学部・准教授）*
	品田知美（立教大学コミュニティ福祉学部・講師）
	島 直子（早稲田大学理工学部・講師）
	嶋崎尚子（早稲田大学文学学術院・教授）*
	施 利平（明治大学情報コミュニケーション学部・准教授）
	鈴木富美子（明治大学情報コミュニケーション学部・講師）
	田中慶子（公益財団法人家計経済研究所・研究員）
	田中重人（東北大学大学院文学研究科・准教授）*
	田渕六郎（上智大学総合人間科学部・准教授）*
	土倉玲子（北星学園大学短期大学部・講師）
	筒井淳也（立命館大学産業社会学部・准教授）
	中西泰子（相模女子大学人間社会学部・准教授）
	西村純子（明星大学人文学部・准教授）*
	西野理子（東洋大学社会学部・教授）*
	福田亘孝（青山学院大学社会情報学部・教授）*
	保田時男（大阪商業大学総合経営学部・准教授）*
	松信ひろみ（駒澤大学文学部・准教授）
	松田茂樹（第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部・主任研究員）*
	渡辺めぐみ（龍谷大学社会学部・講師）

## 付記2 研究支援・補助金について

「第3回家族についての全国調査」の実施、ならびに NFRJ08 実行委員会の活動は、日本家族社会学会全国家族調査委員会のもとに行われました。日本家族社会学会の第6期会長の牧野カツコ先生、第7期会長の渡辺秀樹先生に、この場を借りてお礼申し上げます。

「第3回家族についての全国調査」の実施、およびその後の第1次報告書、第2次報告書（本書）の刊行にあたっては以下の研究費の助成を受けています。記して謝意を表します。

日本学術振興会科学研究費補助金

基盤研究 (A) 「家族研究のための大規模長期継続データの構築」(研究課題番号 18203030)

研究代表者：稲葉昭英（首都大学東京人文科学研究科准教授）

期間：平成 18（2006）～平成 21(2009)年度

交付額：	直接経費	間接経費		
平成 18 年度	50 万円	15 万円		
平成 19 年度	50 万円	15 万円		
平成 20 年度	3,430 万円	1,029 万円		
平成 21 年度	100 万円	30 万円		
合計	3,630 万円	1,089 万円	総計	4,719 万円

日本学術振興会科学研究費補助金

基盤研究 (B) 「日本の家族に関するトレンド分析」(研究課題番号 22330155)

研究代表者：永井暁子（日本女子大学人間社会学部准教授）

期間：平成 22（2010）～平成 23(2011)年度

交付額：	直接経費	間接経費		
平成 22 年度	220 万円	66 万円		
平成 23 年度	300 万円	90 万円		
合計	520 万円	156 万円	総計	676 万円

公益財団法人トヨタ財団研究助成プログラム「日本の地域社会特有の家族特性に関するトレンド分析」(研究番号 D09-R-0420)

研究代表者：永井暁子（日本女子大学人間社会学部准教授）

期間：平成 21（2009）11 月～平成 23(2011)年 10 月

助成金額： 240 万円

### 付記 3 「第 3 回家族についての全国調査」に関連した全国家族調査委員会による刊行物

『第 3 回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第一次報告書』(2010 年 4 月)

(日本家族社会学会全国家族調査委員会編)

第 3 回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第 2 次報告書 (2011 年 9 月)

第 1 巻 田中重人・永井暁子編『家族と仕事』

第 2 巻 田淵六郎・嶋崎尚子編『世代間関係の動態』

第 3 巻 福田亘孝・西野理子編『家族形成と育児』

第 4 巻 稲葉昭英・保田時男編『階層・ネットワーク』

# NFRJ08 研究会について

## 1. NFRJ08 研究会とは

「第3回全国家族調査」(NFRJ08) データの利用については、当初から、日本家族社会学会会員による「共同利用」を2010年度に予定していた。この「共同利用」をおこなう研究組織が「NFRJ08 研究会」である。NFRJ08 第1次報告書(日本家族社会学会 2010) 原稿脱稿後、2010年2月以降に参加者を学会内で募集、4月には参加者にデータを配布して、研究活動を開始した。この研究活動の成果は、NFRJ08 研究会の会合で報告されるほか、各参加者による学会報告や論文として公表されてきた。これらをまとめたものがこの『第2次報告書』である。この報告書刊行後は、東京大学 SSJ データアーカイブに寄託の手続きをとり、これまでの NFRJ98、NFRJ03 データと同様に、研究者の2次利用のために NFRJ08 データを広く公開する予定である。

## 2. 組織編成

NFRJ08 調査の企画、実施、(第1次) データクリーニング、第1次報告書の作成は、日本家族社会学会全国家族調査委員会委員および学会内から公募したメンバーで編成される「NFRJ08 実行委員会」によっておこなわれた。その後の学会内共同利用のための組織は、第1次報告書原稿が完成した2010年1月以降に、参加者を学会内から公募する形でつくられた。2010年2月17日付で文書「NFRJ08 研究会メンバー募集」を学会 WWW サイトおよびメールマガジンを通じて学会員に配布した。これに対して、3月31日までに40名の応募があった。応募については当面の期限を3月10日としていたが、これは絶対的な期限ではなく、この後にも応募があったメンバーを随時追加している。

参加者のうち、NFRJ08 実行委員会メンバーを「幹事」とし、またその中から、NFRJ08 実行委員会の委員長であった稲葉昭英が研究会代表となり、事務局は田中重人がつとめることとした。

応募者の研究テーマを勘案して4つの班を作成し、研究活動は班ごとに行うことにした。各班には、それぞれ「世話人」を1人おき、その班の研究活動を統括することとする。

- ・第1班「ワークライフバランス／女性のライフコース」(12人, 世話人=田中重人)
- ・第2班「世代間援助関係・介護」(8人, 世話人=田淵六郎)
- ・第3班「出生行動・育児・情緒構造」(12人, 世話人=福田亘孝)
- ・第4班「階層・ネットワーク」(11人, 世話人=稲葉昭英)

(2011年7月現在、43人)

ただし、この班編成は便宜的なものであり、所属を変更することもありうるし、他の班の行事に参加することもできる。

### 3. 活動内容

民間のインターネット・サービスを使い、メーリング・リストとファイル共有スペースを確保した。研究会参加者向けの連絡はメーリング・リストでおこなう。データ、プログラム、コード表、調査に関する資料、研究会報告資料などは、ファイル共有スペースから必要に応じて参加者各自がダウンロード／アップロードする。

NFRJ08 データファイルは、4月1日にメンバー全員に配布した。このファイルは第1次報告書（日本家族社会学会 2010）で使用したデータ（Ver 2.1）に変数ラベル等に関する修正を加えた Ver. 3 である。ただし、このあと、調査地点が人口集中地区（DID）であるかどうかを識別する変数などに不備が見つかったため、7月18日付で訂正プログラムを配布した。さらに、分析を通じて見つかった問題についてクリーニングをおこない（担当：保田時男）、修正を加えたデータを Ver. 4 として配布した（2011年2月18日）。この時点までに分析が相当進んでおり、学会報告や論文として Ver. 3 データに基づく成果が出ていることがあるので、注意されたい。第2次報告書所収の論文では、原則として、最新版である Ver. 4 データを使うことになっている。なお、データ利用にあたっては研究会参加者全員がデータ利用申請書（第1巻末尾資料）を提出している。この申請書には、データ分析と結果公表に関する倫理的事項についての誓約がふくまれる。

2010年7月3-4日に、全体での研究会を行った（東京、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス）。この研究会は、東北大学法学研究科グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」と共同での開催である。その後は各班の計画で研究会を開催した。ただし、2011年3月11日に発生した東日本大震災とその後の混乱のため、3月以降に予定されていた研究会が中止となった。結果として、各班独自の研究会開催は、それぞれ1度ずつである。

第2次報告書のための原稿を2011年5月31日締切で募集し、またこの原稿に基づく報告会を7月23-24日におこなった（東京、日本女子大学目白キャンパス）。

この報告会における質疑などを踏まえて7月末締め切りで論文原稿を確定した。この原稿を元に編集したものがこの第2次報告書である。報告書編集にあたっては、大日義晴（首都大学東京）が実作業を担当した。

### 4. 今後の予定

NFRJ08 研究会の活動は、第2次報告書の刊行をもって実質的に終了することになる。今後は、東京大学 SSJ データアーカイブへの寄託手続きがすみしだい、同データアーカイブから提供を受けて2次分析をすることが可能となる。このデータ公開手続きが完了するまでのデータ管理の必要から、NFRJ08 研究会自体は継続して存在するが、データ公開手続きが完了した時点で、NFRJ08 研究会（および NFRJ08 実行委員会）は正式に解散する。

【文献】日本家族社会学会全国家族調査委員会，2010，『第3回家族についての全国調査（NFRJ08）第一次報告書』日本家族社会学会全国家族調査委員会。

2011年8月

NFRJ08 研究会事務局 田中重人



田中重人・永井暁子編 2011.09

第3回家族についての全国調査(NFRJ08)第2次報告書 第1巻『家族と仕事』

日本家族社会学会全国家族調査委員会

## 目次

1. 乳幼児をもつ女性の就業の規定要因  
—NFRJ98, NFRJ03, NFRJ08 の比較— ..... 1  
**西村 純子**
2. 既婚女性の就業とサポート・ネットワーク  
—多項ロジット・モデルによる就業形態とネットワークの比較分析— ..... 17  
**松井 真一**
3. 正規就業と性別役割分業意識が家事分担に与える影響  
—NFRJ08 を用いた分析— ..... 35  
**乾 順子**
4. 日本の家事分担における性別分離の分析 ..... 55  
**筒井 淳也**
5. 共働き家庭における夫の家事・育児遂行に対する  
妻の満足度の規定要因について ..... 75  
**松信 ひろみ**
6. 既婚女性の就業パターンとワーク・ライフ・バランス  
—NFRJ の 10 年間の変化とライフステージに着目して— ..... 89  
**鈴木 富美子**
7. 夫婦の働き方とワーク・ファミリー・コンフリクト  
—夫婦の職業形態別にみたワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因— ..... 111  
**婁 智恵**
8. 家族役割の何が阻害されることが問題か  
—Work-Family Conflict を規定する家族役割の男女間の相違— ..... 129  
**内田 哲郎**

9. The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce : The Gender Gap in Equivalent Household Income .....	143
<b>Sigeto TANAKA</b>	

資料

10. 第3回家族についての全国調査 (NFRJ08) コード表 .....	167
11. 欠票調査票コード表.....	191
12. NFRJ08 研究会資料 .....	193

**Edited by Sigeto Tanaka and Akiko Nagai, September 2011**  
**Second Report on the National Family Research of Japan, 2008 (NFRJ08) Volume 1**  
**Family and Work**  
**Committee on the National Family Research of Japan (NFRJ),**  
**the Japan Society of Family Sociology**

## CONTENTS

- |    |   |     |
|----|---|-----|
| 1. | What Determines Employment of Women with Infants?<br>: Comparisons among NFRJ98, NFRJ03, NFRJ08   | 1   |
|    | <b>Junko NISHIMURA</b>  |     |
| 2. | The Contribution of Support Networks to Married Women's Employment:<br>Comparison analysis on Type of Employment using Multinomial Logit Model                    | 17  |
|    | <b>Shinichi MATSUI</b>  |     |
| 3. | The Effects of Wife's Regularly Working and Couple's Gender Role Attitudes on the Division<br>of Household Labor— Analysis of NFRJ08 Data—                        | 35  |
|    | <b>Junko INUI</b>   |     |
| 4. | Gender Segregation of Housework in Japan: An Analysis using NFRJ08  | 55  |
|    | <b>Junya TSUTSUI</b>  |     |
| 5. | The Factor in Dual-earner Wives' Satisfaction of Husbands' Household work and<br>Childrearing   | 75  |
|    | <b>Hiroshi MASTSUNOBU</b>   |     |
| 6. | The Balance between Work and Lifestyle for Married Women in Employment:<br>Changing Trends over the Last Ten Years and a Comparison of Different Life Stages      | 89  |
|    | <b>Fumiko SUZUKI</b>  |     |
| 7. | Couple's Occupational Type and Work-Family Conflict   | 111 |
|    | <b>Jihey BAE</b>  |     |
| 8. | Is it Problem Which Part of Family Role is Hindered?<br>— Difference between the Male and Female about Family Role Contents Prescribing<br>Work-Family Conflict — | 129 |
|    | <b>Tetsuro UCHIDA</b>   |     |

9. The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income <b>Sigeto TANAKA</b>	143
---	-----

## **Appendix**

10. National Family Research of Japan 2008 (NFRJ08) Code Table	167
11. Records of Non-response Sample Code Table	191
12. Resources : Forms and Records of NFRJ08 Data Joint Use Project	193

第3回家族についての全国調査（NFRJ08）第2次報告書 第1巻

**家族と仕事**

田中重人・永井暁子編

2011年9月5日発行

発行

日本家族社会学会全国家族調査委員会

事務局（発行担当）：214-8565 川崎市多摩区西生田 1-1-1

日本女子大学人間社会学部 永井暁子研究室内

NFRJ08 実行委員会事務局

